

13 徳島の未来

●徳島の歴史と徳島出身の偉人

これまで経済を中心に徳島の特徴を見てきました。徳島が経済的に豊かで、食や自然、文化なども誇るべきところがいっぱいあることがわかりただけたのではないかと思えます。最後に徳島の歴史や徳島出身の偉人・有名人について、ごく簡単に見ておくことにしましょう。

徳島は歴史ある地域です。人類誕生や縄文・弥生時代以前から特徴的な歴史があります。たとえば、恐竜の化石は全国各地で発掘されていますが、勝浦町で見つかった竜脚類の草食恐竜ティタノサウルス形類の歯の化石は、白亜紀前期（約1億3千万年前）の地層から発掘されています。これは、福井県立恐竜博物館があり、恐竜の化石の発掘で有名な福井県勝山市の地層（約1億2千万年前）よりも古く、日本最古級です。

また、徳島には少なくともおよそ2万年前ごろから人が住んでいました。約2千数百年前の縄文時代の終わりから弥生時代の初めごろは、徳島城公園のあたりは海辺で、公園内

の城山貝塚では貝殻や土器、住居跡などが確認されています。なお、城山貝塚の発掘は、徳島市出身で世界的に有名な考古学者である鳥居龍蔵博士の指導の下で行われました。

弥生時代に豊作を祈念する祭礼に使われたとも言われる銅鐸も多数出土しています。全国で出土した銅鐸はおよそ五百点ありますが、そのうち徳島県は40点以上を占めており、全国有数の出土数となっています。

また、弥生時代後期から古墳時代前期にかけては、朱（赤色の顔料）の原料である辰砂が採掘されていました。阿南市の若杉山遺跡は、日本最古の辰砂採掘遺跡で、2009年に国史跡に指定されています。朱は、古代日本で銅鐸や土器、古墳の石室を赤色に着色するために大量に使用されるなど、大変重要な役割を果たしていました。

徳島は古代より拓け、関西圏や朝廷とのつながりが強い地域でした。日本最古の歴史書である古事記では、淡路島に次いで四国（伊予之二名島）ができたとされています。この中の阿波国の別名が大宜都比売神で、食糧の神とされています。

天皇ご即位の重要儀式・大嘗祭では、古くから阿波忌部の民がつくる麻織物の「あらたえ」が調進（注文に応じ、品物を整えて差し上げること）されています。最近では、

2019（令和元）年11月に行われた大嘗祭で、阿波忌部の子孫と伝わる三木家から、「あらたえ」が調進されました。

中世から近世にかけて、海路が主要な交通手段であった時代、徳島は「四国の玄関口」となっていました。四国八十八か所の一番札所（靈山寺）も、徳島県鳴門市にあります。

室町時代には、14世紀に、阿波出身の細川頼之が將軍を補佐する管領となりました。細川氏は、その後も一門で阿波や畿内の守護職（国単位で設置された軍事指揮官・行政官）を占めるなど、有力守護大名として活躍します。16世紀には三好長慶が阿波・讃岐・淡路を本拠に畿内の主要地域を支配しました。三好長慶は最近歴史研究が進み、織田信長より前の戦国天下人として見直されてきています。また、徳島には「阿波公方」と呼ばれる足利將軍家の一族が住んでいました。第十四代將軍の足利義榮は阿波公方出身です。

このように阿波出身者が京都で活躍する時期が長く続いたことから、有名な歴史小説家である司馬遼太郎氏は、「阿波人の京都支配は二百年という長さになる」（街道をゆく32）と書き残しています。

江戸時代には蜂須賀家が阿波・淡路島を支配しました。この間、3章で説明したように、蜂須賀公の奨励もあって、藍作が主要産業となっていく、日本を代表する藍商人などが誕生します。徳島は、暴れ川である吉野川が毎年のように洪水をくり返すため、米作には不向きでしたが、藍は通常洪水が発生する前の7月に収穫でき、また川の氾濫によって流域に肥沃な土が運ばれるため、藍作には適していました。加えて、江戸時代に衣

服に使う布地が麻から藍染めしやすい木綿に代わり、藍の需要が大きく増加したのです。このほか、砂糖、たばこ、塩の生産も盛んでした。こうしたことから徳島藩の表石高は25万7000石ですが、じつしつこくだか実質石高は50万石と言われるほど繁栄しました。

明治維新後も藍産業は引き続き徳島の主要産業となっていました。しかしながら、明治30年代に入り、安い外国産の藍や化学染料に押されて、藍産業は急速に衰退します。その後、製糸業や紡績業などが盛んになり、戦前の徳島は「繊維王国」と呼ばれるようになります。高度成長期には繊維のほか、化学や紙パルプ工業などの生産が増加します。また、金額は大きくないものの、家具、仏壇、大谷焼、わかめ、藍染めなども全国的に有名です。ただし、全国の工業化の進展のスピードの方が速かったため、たとえば1964（昭和39）年の徳島県の製造品出荷額の全国に占める割合は0・37%と、極めて低い水準にとどまっていました（ちなみに、当時の徳島県の人口の全国に占める割合を1965年の国勢調査で見ると、0・76%でした）。

しかしながら、第5〜7章でみてきたように、その後大塚グループ、日亜化学工業（株）をはじめ、製造業が急速に成長します。

この結果、平成の間に徳島の経済は全国を大きく上回るスピードで順調に成長しました。

県民経済計算統計をみると、平成になる直前の1988（昭和63）年度から2017

(平成29)年度までの間に、製造業出荷額は1・8倍に増え(全国は1・1倍)、豊かさを表す県民一人あたりの県内総生産も1・8倍に増えていきます(全国は1・4倍)。令和になっても製造業は引き続き元気です。勇気づけられる動きですね。

人物に目を転じると、徳島出身の偉人や有名人は大勢います。

明治以降でみても、人類学者の鳥居龍蔵、日本の薬学の創始者と言われる長井長義、救貧事業などを通じて友愛・互助・平和の精神を説き続けた賀川豊彦は徳島出身です。また、政治の分野では第六十六代内閣総理大臣の三木武夫が、経済の分野では大塚グループ、日亜化学工業(株)などを世界的な企業に育てあげた経営者たちがいます。

最近では、芸術やスポーツの分野で徳島出身者が大活躍しています。作家の瀬戸内寂聴、光を使った芸術的な展示を行うチームムラボ代表の猪子寿之、シンガーソングライターの米津玄師、アニメ版「鬼滅の刃」を制作したユーフォーテーブルを率いる近藤光、女子プロゴルフ賞金女王の鈴木愛選手など、多士済々です。

このように、徳島出身の偉人や有名人は大勢いますが、ここでは、最近業績が再評価され注目されている三好長慶と、明治以降に社会・科学の分野で活躍した偉人、それに現在芸術やスポーツの分野で全国的に活躍している有名人に絞ってご紹介します。

●三好長慶

三好長慶は、16世紀の戦国武将です。後世、松永久秀に下剋上げこくじょうを許したと歪ゆがんで伝えられました。最近歴史研究が進み、織田信長より前の戦国天下人として見直されてきています。

もともと細川氏の家臣でしたが、他の3兄弟と力を合わせて中央（近畿）に進出し、阿波・讃岐・淡路をはじめ、畿内の山城やましろ・摂津せつづ・和泉いずみ・河内かわち・大和やまと・東播磨ひがしはりま・丹波たんば・丹後たんごを支配し、室町幕府を左右する実力をもつようになりました。

自由都市堺の保護、いくさにおける鉄砲の活用、キリスト教布教の許可、石垣白壁いしがきしろかべの築城も行いました。これらは織田信長に先立つものと言われています。

現在、「三好長慶NHK大河ドラマ誘致推進協議会」が徳島と関西で設立され、署名活動や講演会など、活発な活動が展開されています。

●鳥居龍蔵

鳥居龍蔵は、わが国の人類学・民族学のパイオニアです。

明治・大正・昭和にかけて、約半世紀もの間、中国各地、台湾、朝鮮半島、モンゴル、東部シベリア、サハリン島、千島列島、南米などさまざまな地域を訪れて調査しました。

調査の範囲は民俗学、考古学、歴史学など幅広く、また現地の人たちの暮らしの様子など

を写真も使って詳細に記録しました。

徳島市の城山貝塚も鳥居龍蔵の指導の下で発掘され、縄文時代の終わりから弥生時代の初めごろにかけての当時の人たちの生活の様子が明らかにされました。

徳島県文化の森総合公園内には、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館があり、鳥居龍蔵が残したぼう大な資料をみることができます。

●長井長義

長井長義は日本の医薬品業界に大きな貢献をし、「日本の薬学の創始者」と呼ばれています。蜂須賀藩の御典医ごてんい（大名に召し抱えられた医者）の家に生まれ、長崎とドイツに留学して化学を学びました。帰国後、今でも風邪薬に使われているエフェドリンを発見し、その後、東京薬学会（現在の日本薬学会）の初代会頭を務めました。

また、高等女学校を設立したほか、その3年後に設立された日本初の女子大（日本女子大学校）で家庭化学を教えるなど、女性の高等教育にも力を尽くしました。

晩年には、官立の薬学専門学校の設立を政府に働きかけ、徳島高等工業学校応用科学製薬科学部（現在の徳島大学薬学部）の設立にも深く関わっています。

●賀川豊彦

賀川豊彦は、大正・昭和期に活躍した社会運動家です。神戸の貧民街に住みながらキリ

スト教の伝道と救貧活動を行った経験を描いた自伝的小説「死線を超えて」は、大ベストセラーになりました。また、多くの協同組合の創設に関わり、生活協同組合、農協共済の父とも言われています。

社会運動家としての活躍もあって海外での評価も高く、ノーベル文学賞、ノーベル平和賞の候補にも何度かあげられています。

賀川豊彦に関する記念館や関係する団体は全国各地にあります。県内でもドイツ館のとなりには鳴門市賀川豊彦記念館があり、「愛は、私の一切である」という賀川豊彦の言葉を刻んだ石碑とともに、六百点余りの貴重な資料が展示されています。

現在芸術やスポーツの世界で活躍している有名人についても見てみましょう。

●瀬戸内寂聴

作家の瀬戸内寂聴は、小説『夏の終り』や『花に問え』、『現代語訳源氏物語』など、数多くの作品を書いています。

1973年に出家して僧となった後も、京都の嵯峨野さかやまのに寂庵じやくあんを構えて精力的な執筆活動を続けていますが、軽妙な法話や人生相談、エッセーなども大人気となっています。

2006年には文化勲章も受章しました。

「生きることは愛すること」がモットーです。徳島県で開催された国民文化祭のために書かれた人形浄瑠璃「モラエス恋遍路」でも、「人がこの世に生まれるのは、愛するためです」という言葉が出てきます。

●チームラボと猪子寿之

猪子寿之が率いるチームラボは、光を使った芸術的な展示が世界中で大人気となっています。東京・お台場のミュージアム「森ビルデジタルアートミュージアム…エプソン チームラボボードレス」は、米国の国際的なニュース雑誌、タイム誌の「世界で最も素晴らしい場所2019年度版」に選ばれました。2019年にアメリカのトランプ大統領が国賓として来日した際も、メラニア夫人と安倍昭恵首相夫人と一緒に訪れています。

海外でも、シンガポールを象徴する三つ星ホテルであるマリーナベイ・サンズに常設のミュージアムが開設され観光名所となるなど、活動の舞台は世界中に広がっています。

徳島県内では、文化の森（呼応する木々、憑依する滝）、阿波銀行本店1階（Flowers in the Sandfall-Tokushima）、あすたむらんど徳島（つながる！積み木のまち）などにチームラボの作品が常設展示されています。

●米津玄師

米津玄師は、日本を代表するシンガーソングライターです。

当初インターネットの動画投稿サイトに歌声合成技術を利用した作品を投稿し、人気を博していました。2012年にソロデビューした後は「Lemon」^{レモン}「馬と鹿」などの大ヒット曲をたて続けにリリースしています。同時に、菅田将暉^{すだまさき}やForin^{フォーリン}の曲も手がけ、大成功を収めるなど、プロデューサーとしての才能も発揮しています。

2018年末の『紅白歌合戦』では、「Lemon」を熱唱し大きな感動を呼びました。舞台となった大塚国際美術館のシステイナ・ホールは、米津玄師のファンにとって聖地となり、大勢の人が訪れるようになっていました。

●ユーフォーテーブルと近藤光

大ヒットし社会現象にもなった「鬼滅の刃」^{きめつ}のアニメを制作するのが、近藤光が率いるユーフォーテーブルです。ほかにも「刀剣乱舞」^{とうけんらんぶ}、「Fate」^{フェイト}、「おへんろ」などの人気アニメーション作品を手がけています。

ユーフォーテーブルは、徳島市内にもスタジオやカフェ、映画館を構えています。近藤光は、徳島市を舞台に開催される全国的に有名なアニメイベントである「マチ★アソビ」にも、開催当初から深く関わっています。

●鈴木愛

東みよし町出身の女子プロゴルファー・鈴木愛選手は、小学校5年生のときにゴルフ

を始め、2009年に中学生で「四国女子アマチュアゴルフ選手権競技」で優勝しました。その後2013年にプロとなり、2017年と2019年の賞金女王に輝くなど、トッププレーヤーとして活躍しています。

●徳島の未来を創る

この本では、経済の中心に徳島の特徴をみてきました。いかがでしょうか。確かに徳島は、高齢化や人口減少などの問題が全国以上に深刻です。けれども製造業が元気で、経済的に豊かで、食や自然に恵まれています。過疎に悩む中山間地域でも、サテライトオフィスで有名な神山、葉っぱビジネスやゼロ・ウェイスト宣言の上勝、それに秘境として香港や欧米の観光客などにも人気の祖谷等、全国から注目されている地域があります。

またご紹介した通り、徳島出身の偉人や有名人は大勢おり、政治・経済・芸術・スポーツなど、さまざまな分野で活躍してきました。

こうした徳島のことを、県外の人はどうのように見ているのでしょうか。残念ながら、(株)ブランド総合研究所が公表しているアンケート結果(都道府県別魅力度ランキング2020)を見ると、徳島は魅力度ランキングで全国47都道府県中46位と、下位に甘んじています。しかし、徳島に移住したり、転勤で県外から徳島にやってきた人に聞くと、

徳島は魅力的だと答える人が多いのです。たとえば、徳島経済同友会が2020年9月に実施した徳島への移住者に対するアンケート調査や、阿波燦燦会あわさんさんかいという転勤族の親睦会しんぼくかいが2018年に実施したアンケート調査の結果をみると、徳島の好きな点として、川や海などの美しく豊かな自然、魚、肉、野菜など食べ物がおいしい、人がおおらかで人情味がある、住みやすい（都会よりも治安がよい、あわただし過ぎない、物価が安い）、阿波おどりなど豊かな文化があげられています。

なぜこのようなギャップがあるのでしょうか。それは、来てみて住んでみるとよいところがいっぱいあるのに、そのことを徳島に住んだことがない人に十分伝えきれていないからだと考えられます。

実は、先にあげた魅力度ランキングは、（株）ブランド総合研究所が公表している愛着度ランキング（地元愛の強さのランキング）や自慢度ランキング（地元を誇りに思う人の割合のランキング）と密接な関係があります。つまり、地元のことが好きで自慢に思う人が多い地域は、よその人から見ても魅力的なのです。たとえば、2020年の魅力度ランキングのトップ3は北海道、京都府、沖縄県ですが、2019年の自慢度ランキングのトップ3も北海道、京都府、沖縄県でした。また、2019年の愛着度ランキングで北海道は1位、京都府は6位、沖縄県は3位と、いずれも全国トップクラスです。

魅力度ランキングと地元の人への地元に対する思いとの間にこのような密接な関係があることについては、次のように解釈できます。まず、地元に対する思いが強い地域は、その地域の出身者が県外に住むようになった場合でも、地元のをさを友人や知人に話をするでしょう。よいところだと聞くと、行ってみたいくなるのが人情です。また、県外から来た観光客や大学生、転勤族も、地元の人から見どころやおいしい店など、さまざまな情報を簡単に入手することができるとでしょう。このように、地元に対する思いが強い地域では、その地域の出身者一人ひとりが地元の宣伝をしてくれるのです。それだけではありません。地元に対する思いが強い地域では、地元の景観や自然環境を守り、その地域をより住みやすくしていかんとする活動も行われやすいと考えられます。住む人にとって住みやすい場所は、訪れる人にとっても魅力ある場所です。当然その地域の魅力は高まることになります。

これらのことから徳島の魅力度を高めるためには、私たち一人ひとりが徳島のよいところを発見し、好きになって、県外の人に魅力を伝えること、そして徳島をよくしていかうと行動することが非常に大事であることが分かります。ところが残念なことに徳島県は愛着度ランキング、自慢度ランキングでも全国平均以下となっています（たとえば2019年の愛着度ランキングは33位、自慢度ランキングは43位です）。

この本がきっかけになって皆さんが徳島のことをもっとよく知ろうと思ひ、好きになっ

ていろいろな人に徳島の魅力を伝えること、そして徳島の魅力をさらに高めるように行動することを期待しています。

国や地域に繁栄をもたらすのは、最後は人です。日本の未来を創るのは、創造性ある人たちであり、地域を創るのは、そこで暮らす人たちです。徳島は多くの偉人や経営者、芸術家を生み出し、日本や地域の発展につなげてきました。こうした事実を知り、皆さんもそうした人たちに続いて、明日の日本や徳島を創っていく人になることを期待しています。

最後に、質問です。

○あなたにとって徳島のおよさ、好きなところはどんなところでしょうか？

○県外の人や親せきが徳島に来た時、何をすすめますか？

○徳島の魅力を高めるためには、どんなことをしていけばよいでしょうか。

○徳島の未来のために、あなたは何をしますか？